



ログ ファイル エクスポート

- [ログ ファイル エクスポート \(1 ページ\)](#)
- [リモート サーバへのログ ファイルのエクスポート \(2 ページ\)](#)

ログ ファイル エクスポート

Cisco UCS Manager 実行可能ファイルごとにログ ファイルを生成します。ログ ファイルのサイズは最大 20 MB であり、バックアップを 5 回までサーバに保存できます。ログ ファイル エクスポートでは、ログ ファイルが削除される前に、リモート サーバにエクスポートできます。ログ ファイル名には次の情報が含まれます。

- プロセスの名前
- タイムスタンプ
- ファブリック インターコネクトの名前と ID



(注) ログのエクスポートをイネーブルにしない場合は、バックアップファイルの最大限度に達するたびに、最も古いログ ファイルが削除されます。

注意事項と制約事項

- ログのエクスポートには、`tftp` またはパスワードなしの `scp` か `sftp` を使用することを推奨します。標準 `scp` または `sftp` が使用される場合、ユーザパスワードは暗号化された形式で設定ファイルに保存されます。
- HA のセットアップでは、各サイドからのログ ファイルが別々にエクスポートされます。1 つのサイドがログのエクスポートに失敗した場合、他のサイドが補償することはありません。

リモートサーバへのログファイルのエクスポート

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニターリングモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope sysdebug	モニターリング システム デバッグ モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/sysdebug # scope log-export-policy	ログファイルのエクスポートモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set admin-state {disabled enabled}	ログファイルのエクスポートが有効かどうか。
ステップ 5	(任意) UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set desc description	ログのエクスポートポリシーの説明を入力します。
ステップ 6	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set hostname hostname	リモートサーバのホスト名を指定します。
ステップ 7	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set passwd	Enter キーを押すと、パスワードを入力するように促されます。 リモートサーバーのユーザー名のパスワードを指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。
ステップ 8	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set passwordless-ssh {no yes}	パスワードなしの SSH ログインを有効にします。
ステップ 9	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set proto {scp ftp sftp tftp}	リモートサーバとの通信時に使用するプロトコルを指定します。
ステップ 10	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set path path	ログファイルが保存されるリモートサーバのパスを指定します。
ステップ 11	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set user username	システムがリモートサーバーへのログインに使用する必要のあるユーザー名を指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次に、ログ ファイルのエクスポートを有効にし、リモート サーバのホスト名を指定し、プロトコルを `scp` に設定し、パスワードなしのログインを有効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope sysdebug
UCS-A /monitoring/sysdebug # scope log-export-policy
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set admin-state enable
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set hostname 10.10.1.1
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set path /
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set user testuser
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set proto scp
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set passwd
password:
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set passwordless-ssh yes
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy #
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。